

実践報告資料

研究テーマ 『自分・人・大観が好きで、未来に向かい今をたくましく生きる子どもの育成～自分をみつめ、まちとつながり、未来へ生きる場の工夫～』

研究内容 【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名 (明石市立大観小学校)

ア 人権教育としてのねらい

自尊感情・自己肯定感を高めるとともに、他者の多様な見方や考え方を受容し合いながら、公正公平な態度で合意形成を図り、ともに社会を構築する意志をもったよりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。

イ 研究の概要

他者の見方・考え方を受容し、他者理解のもとに責任をもって物事を解決しようとする態度の育成に努めながら、自己の達成感や成就感を基盤に自尊感情・自己肯定感を高める取組を行う。さらに、SNS、オンラインゲーム上のトラブル等の事案に対して情報活用能力の向上を図るために、実態に則した情報モラル教材を用いて自分の考えや意見を積極的に表現するとともに、相手の立場に立って考え行動することのできる集団づくり・授業づくりを行う。

領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	6年担任 推進教員	人権担当 推進教員	児童会担当 推進教員	6年担任 推進教員
実施日	7月7日(水)～7月16日(金)	7月15日(木)	4月～3月(通年)	4月～7月
取組名	自分の意見を読み手に伝わるように投稿しよう	「あたりまえ」の「ちがいを考えてみよう	児童会活動	大観のあおぞら 未来つなぎ隊
目標	読み手を不快な思いにさせないために大切なことを考えることができる。 【価値的・態度的側面】 読み手に自らの思いを理解してもらうために、書き表し方を工夫することができる。 【技能的側面】	SNSの正しい利活用を知り、【知識的側面】相手の気持ちを考えた言い方や行動を基にした温かい人間関係を築くことのできる態度を育てる。 【価値的・態度的側面】	誰もが居心地の良い場を保障するために、SNSの正しい利活用の方法を児童会中心に考え、【知識的側面】児童の力で全校生に啓発を図る。【価値的・態度的側面】	自らがクラス地域の防災について考えるうえで高齢者等様々な理由で自らの安全を確保できない人々を地域で守ろうとする態度を育てる。 【価値的・態度的側面】
資料名	「インターネットの投稿を読み比べよう」 東京書籍	「楽しいコミュニケーションを考えよう」 『ネットコミュニケーション・リテラシー教育』(LINE・静岡大学)	明石市ネット三か条(明石市教育委員会、兵庫県立大学)	
指導内容や指導方法の工夫等	インターネット上で嫌な思いをした経験について児童に想起させ、実態把握した上で読み手の気持ちを考えた書き方について学習の見直しをもつ。 教科書の投稿文から、共感を生む説得のポイントを見つけ、その理由を述べる形で交流する。 相手を不快にさせる一番の原因は何か考える。(相手のことを大切に思う気持ち) ワークシートに自分自身の投稿文を書き、学んだことを活用したことについて単元全体をふりかえらせる。	LINEを使用する上で生じる代表的な不安要素5つを抽出し、順位付けを行う。集計から人それぞれ順位付けが異なることを知り、価値観は多様であることに気づかせる。 価値観の相違による事例について、対話を行いトラブルについて考えることで、SNSでのコミュニケーションは便利である一方、他者を傷つける可能性があることを知り、他者尊重を基本とした正しいSNSの利活用についてふりかえらせるとともに他者を大切にすることの重要性を知る。	同校区の中学校生徒会が考案した「SNSの使い方」の存在を知り、小学校での考案を検討する動機を得る。 現在、児童会で「大観こあじ宣言(こ…個人情報保護、あ…相手の気持ちの尊重(他者尊重)、じ…(使用)時間遵守)」を作成。児童会役員は、夏休み中に市内で行われる「あかし子どもサミット(他校の児童会生徒会の会議)」に参加し、そこで知れた市内児童生徒のネット利活用に関する実態を学び、「こあじ宣言」の見直しを図ったうえで、大観小学校のネットモラルやルールを全校児童に伝え実行していく。	自らの生活の中で危険だと考える内容やこれまでの歴史の中で恐怖に感じることを出し合い、その脅威から自らを含めた地域の人々を守ることにについて、考える。 様々な関係機関との交流を経て自らが考えた課題解決の内容と方法について、友だちと協力し地域に発信することで、未来の地域貢献について考える。